



センターのイベントに参加することが、会社を知ってもらうきっかけに
岡山工芸株式会社
代表取締役社長 岡山さま

センターのカウンセリングを受けたことがきっかけで、憧れの京都で伝統工芸に関わる仕事に
齋藤さん 法政大学卒業

企業の社屋に学生が行き、仕事の話や社屋セミナーや大学での業界研究会参加など、これまで様々なイベントにご参加いただいた岡山工芸さん。2020年度、当センターを通じて東京から1ターンで就職された方がいます。岡山社長とこの春就職したばかりの齋藤さんに、カウンセリング担当の林と、企業担当の横井がお話を伺いました。

東京から1ターンで京都に。京都市わかもの就職支援センターを友人に勧められたことがきっかけ。

横井:2016年に開催した「しごとトーク KYOTO」*1にご参加くださって以来、2017年には「コトキャリアター」*2、京都市立芸術大学での業界研究会、2019年にはまた「コトキャリアター」と、さまざまなイベントにご参加いただきありがとうございます。市立芸術大学での業界研究会は2018年にも引き続きご参加いただき、伝統工芸の世界に興味のある学生さんにとって業界のことを知れ、将来を考えるきっかけになったのではないかなと思います。
岡山社長:コトキャリアター（社屋セミナー）楽しかったですね。
林:10社くらいある中で、岡山工芸さんは学生さんもたくさん集まって満足度が高かったですね。プログラムも濃い内容で組んでいただったので、学生さんも活発に質問されていましたし。
岡山社長:そう言っていただけてよかったです。イベントの参加など、センターとの交流の中で、齋藤さんが入社してくださったので嬉しいです。

林:齋藤さんが当センターを利用するきっかけは何だったんですか？
齋藤:当時は東京の大学に通っていたのですが、もともと京都が好きでよく旅行に来ていたこともあり、就職は京都で、と考えていました。大学の友達や京都での就職に特化したサイトがあるよと教えてくれたことがきっかけで、センターを利用するようになりました。
林:そうなんですね。地元も関東だったんですか？
齋藤:そうです。地元は千葉です。
林:就職活動はどのような感じで行っていましたか？
齋藤:東京周辺で、大手のナビサイトで検索したり企業説明会を受けたりしていました。でもピンとこなくて。
林:なかなか京都の企業を東京で見つけるのって難しいですよね。
齋藤:そうですね。関東周辺の企業情報はかりで、そもそも京都企業の情報もあまりないですし。
林:就職活動中、ほかに困ったことはありますか？
齋藤:伝統工芸に携わりたかったものの、なかなか就職先を見つけれられるサイト

がなくて、それで就職活動が難航していました。
林:なるほど。伝統工芸に関わる仕事や、京都らしい仕事ってほかにもありますが、その中で岡山工芸さんに就職を決めた理由は何ですか？
齋藤:林さんから「ここはどうですか？」とメールをいただいて、岡山工芸しかないと思いました。高校生の頃、京都にある伝統工芸の専門学校に行きたかったんですけど、親の意見もあり一般の大学に行くことになって。その専門学校のパンフレットの中に、就職先として岡山工芸が載っていて名前を覚えていました。林さんからご紹介していただいた時、これもなかなかの縁かもしれないと思って入社したいと思いました。
林:そうだったんですね。ちなみに学生時代は何を専攻されていたんですか？
齋藤:社会学です。
林:じゃあ本当に大学では一般の勉強をしていて、就職は好きなことにチャレンジしたいなという感じだったんですね。就職の時はご両親に反対されなかったんですか？
齋藤:大学には行ったので、あとは自由にさせてもらいました。将来大丈夫？とは聞かれたんですけど、行きたいところに行くのが一番だなと。あと母は応援してくれていて。父はちょうどドイツで単身赴任中なので「内定いただいたよ」という連絡だけしました（笑）

横井:一番初めに岡山社長とお会いした時の印象って覚えていますか？
齋藤:林さんからどんな方なのか事前に聞いていたことや、会社見学でお会いする前に電話で何度かお話ししているので、お会いした時はイメージ通りでした。
岡山社長:よかった！ 電話でお話したあとは一度会社に見学に来ていただき



2017年に開催したコトキャリアターでの様子。

ました。見学したあとにやっぱり応募はやめておきます、となっても大丈夫なので。来ていただいてゆっくり話をしたいのかなと。

結果よければ全てよし。納得のいく就職活動を。

林:ご自身の就職活動を振り返っていかがですか？
齋藤:結果よければ全てよしという感じですね。
岡山社長:そう言ってもらえてよかった！
齋藤:行きたいところに行けたのが一番大きいです。途中ではITなどの業界も受けたりと迷走していたのですが、やっぱりやりたいと思える仕事でないと面接でも意欲的に話せないと思うので。行きたいと思える会社に決まってくれたかなと思っています。
岡山工芸:内定が決まらなかったら、もうどこにでも行こうと考えていました。そのために、本気で面接を受けようと思っていました。

林:なるほど。入社前にイメージしていたお仕事と実際に働いてみてどうですか？
齋藤:営業という仕事自体がどんな仕事なのかよくわかっていなかったのですが、最近先輩のお仕事に同行させていただいて、どういう仕事かわかってきたのでおもしろいです。
林:ちなみにどんなところがおもしろいと感じていますか？
齋藤:人と会うのが好きなので、いろんな人のところに行けることもですし、着物自体も好きなので色や柄を見させていただけるところがおもしろいです。

林:入社して5ヶ月ですが、目標はありますか？
齋藤:早く色々覚えたいと思っています。今同行している先輩みたいになりたいですね。段取りなど手際もよくて。かっこいいです。
岡山社長:目標があるのはいいですね。

林:就職活動でセンターを利用してよかったことはどんなところですか？
齋藤:本当にいいところをご紹介いただけて、感謝ばかりです。
岡山社長:仲人さんみたいですね。



4月に入社された齋藤さん。好きなお仕事に就くことができ、本当に嬉しそうです。

横井:そうですね。林も岡山社長を知っていたからこそその紹介だったと思うので。

林:岡山社長の人柄などを知っているからこそ、誰でも紹介はできないなと思っていました。ある程度覚悟のいる仕事でもあると思うので、本当にこの業界や扱っているものが好きという人でないと続けられないんじゃないかなと。
岡山社長:そういうところをわかってくださっているのはありがたいです。ハードルが高いのか低いのか……職人さんはたくさん応募があるのですが、営業はあまり応募がなくて。

行政の機関だからこそ、発信することに安心感がある。

横井:どこかで岡山工芸さんのお話をした時に、職人さんを含めスタッフの方が若いことに驚いたという声を聞きました。
岡山社長:そうですね。ご応募いただいた方にはこのお仕事の大変なところも全部お話ししますが、それでも働きたいという方には門戸を開くようにしています。もしかしら今後うちの主力の職人になるかもしれない。そう思うと門を閉じてしまうとそういった可能性のある方も入ってこれないので。
林:実際、採用状況はいかがですか？
岡山社長:会社なので、売上げのことを考えると営業の部署が一番人が欲しいところなんです。そこでいかに優秀な人に入ってもらって、みんなで育てるかというところが重要です。どこもそうだと思うんですけど、新入社員はかわいいのでみんな影から見守っています。あれこれ言い過ぎても良くないと思うので。



行政の機関だからこそ、安心してセンターを利用できると語ってくださった岡山社長。

新入社員を雇うことは会社の未来に対する投資だと思っています。一人前になるのが半年か一年か、それとも5年後なのかわからないですけど、そうしないと今メインの営業が40代、50代なので、今後60代になると定年が見えてきます。そうするとそこで会社が終わってしまうので、新しい人を入れて、未来を作っていくこと。だからこそ、一緒にやれるかなというところを面接で見えています。

横井:センターを利用してよかったことを教えてもらえますか？
岡山社長:優秀な人材を紹介してもらえて本当に良かったです。それとコトキャリアターもお声がけいただいたことで、いろんな方に会社を知っていただけるのでよかったです。そこから広がっていくこともあると思うので。もしかしらツアーで来てくれた人が何かの機会に来てくれることもあるかもしれないし、そういう機会を得られたということが一番嬉しいですね。自分たちでなかなか発信できないこともありますし、民間で広告するのは違って行政の機関が行ってくださっている安心感がありました。
林:そう言っていただけてよかったです。ありがとうございました。

*1 各回テーマを設定し、京都で働く社会人と学生が仕事や働くことについて語り合うイベント。
 *2 京都企業に学生や求職者と訪問し、社内見学やトークを行うイベント。

岡山工芸株式会社（京都市伏見区）
 手描京友禅・和装全般の製造、販売を行う。岡山工芸では営業部・意匠部・工房と大きく3つの部署に分かれており、この3部署がそれぞれ連携しながら仕事を進めている。市場の動向や消費者のニーズ等情報交換や提案を行い、連携してものづくりをしている。
 また、近年では着物の生地そのものを自社で開発し、より染の引き立つテキスタイルの開発も行うなど、新技術の開発や染料の研究にも注力している。
 令和元年に会長岡山耕三氏が瑞宝単光章を受賞。

取材を終えて



担当カウンセラーの林

実は齋藤さんと直接お会いしたのは、この対談の時が初めてだったので「どんな人かな？」と、当日お伺いすることをとても楽しみにしていました。法政大学在学中は、いつも東京からお電話で相談をいただいて、控えめながらも京都や伝統産業に対する強い思いや中々岡山社長のお顔が浮かび、齋藤さんに「とっても素敵な社長さんの会社があるよ！」とお伝えした次第です。今回の対談で、和気あいあいと話されたことが実感でき、私もとても嬉しく思いました！



企業担当の横井

岡山社長と初めてお会いした時「なかなか若い方に京友禅、伝統産業の良さを理解してもらえず、知ってもらう機会も少ないんですよね」という話を聞き、センターとして何ができるか、どのようにしたら魅力を発信できるかを考えました。社屋セミナー、特集記事、しごとトーク等のイベントを開催し、たくさんの方に岡山工芸の魅力を感じてもらい、今回の就職につながったと思っています。また今後も岡山工芸様のような魅力のある京都の企業を知ってもらう機会を多く作っていきたくとも感じました。